

平成21年度 第1回川崎市教育改革推進協議会

日時 : 平成21年10月26日(月) 18時~20時

場所 : 明治安田生命ビル2階 第1会議室

出席者 : 小松委員、高木委員、田中委員、大下委員、山田委員、宮嶋委員、堀切委員、小原委員、村上委員、石垣委員、木場田教育長、伊藤総務部長、手呂内職員部長、金井学校教育部長、鈴木教育改革推進担当参事

欠席者 : 渡邊委員

傍聴者 : 1名

司会 : 高梨企画課長

[配布資料]

- ・かわさき教育プラン第2期実行計画
- ・かわさき教育プラン第2期実行計画(概要版)
- ・かわさき教育プラン第2期実行計画重点施策で展開する事業の主な取組
- ・川崎市教育改革推進協議会設置及び運営要綱
- ・川崎市教育改革推進協議会委員名簿
- ・教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況に係る点検及び評価報告書(平成20年度版)

1 開会

- ・本協議会が公開会議であることの報告
- ・委員委嘱
- ・委員あいさつ
- ・教育長あいさつ
- ・川崎市教育改革推進協議会設置及び運営要綱について
- ・座長選出

2 報告

- ・かわさき教育プラン第2期実行計画について

3 協議題

- ・かわさき教育プラン第2期実行計画重点施策で展開する事業の主な取組(説明者:事務局)

(委員からの意見・事務局からの回答)

- ・地域の大人が学校支援活動を行うことは、支援するだけでなく、支援することからの跳ね返りを受け、大人も学ぶことができる。学校支援は大人にとっての学習活動になっている。地域の大人と一緒に学校支援をすることにより、地域のつながりが生まれてくる。学校は地域の大人にとっても学びの場として機能してきている。学校支援も社会教育の枠のなかにあり、「大人の学びと学校」の関係も重要である。

- 川崎おやじ連と市民ミュージアムの共同事業として、夏休み工作教室を実施した。シニア世代の持っている経験を活かして、子どもたちと一緒に遊び、学ぶことができた。参加した大人たちは、地域でとても必要とされ、一緒に育っていると感じた。地域の一員としての自覚が生まれてきている。
- 地域教育会議としては、学校と地域と行政がもう少し協力しあい、もっと地域の人々を巻き込んでいって欲しい。
- 学校の教育目標に昨今、教育プランが反映されてきている。教育プランができて、自校の教育目標を見直す機会になっている。
- 先生の異動が早くなり、地域とかかわる先生が少なくなっているように感じる。地域に根ざした先生の育成が重要である。
コミュニティー・スクール（以下、CS という）の主旨は良いが、コミュニティーが成り立っている学校もあれば、成り立っていない学校もある。CS にとらわれずに、地域と学校との連携が大事である。
- 地域と学校をつなぐ核となるような先生をさらにつくることが大事である。
- 臨港中では地域連携担当の先生の下に若い先生がついて、地域連携を学んでいる。臨港中の生徒は、地域の中で育っていると感じている。地域と学校の連携が出来上がっていくと、互いに有益である。
- 教育プランは国の政策の影響を受けていると感じる。もう少し川崎らしい教育を打ち出して欲しい。例えば、「子どもの権利条例」という言葉が、かわさき教育プラン概要版に記載されていない。「子どもの権利条例」の認知度が落ちてきている。もう少し認知度が上がるようにしないとイケない。
- 小中連携は、全国的に一般的だが、カリキュラムを作れば良いというような資料に見える。しかし、カリキュラムは、新学習指導要領で示されている。新たに独自のカリキュラムを作るのか、教員の交流が必要なのか等、教育の流行に乗っていくと本質を見失う。川崎の教育をどうするかを明確にしなければならない。不登校が多いということは、子どもたちにわかる授業が行われていないことだと感じる。私が関係している千人規模の学校では、わかる授業を実施したら不登校がいなくなった。授業改善が大事だ。
- 子どもたちが地域で遊んでいる場所は、アンケートした結果、公園とこども文化センターであった。しかし、公園は色々な規制があり、子どもたちが自由に遊べない状況がある。しかし、こども夢パークに子どもを連れて行くと、子どもは自由に遊んでいる。これが本来の子どもの居場所ではないか。

- 昔と違って公園で子どもが遊ぶなくなっているのは、川崎市だけでなく全国的になっている。公園で花を植えている人から見れば、キャッチボールを止めてくれというような人もいる。色々な考え方があり、公園の利用のしかたは難しい。
- 子どもたちが、地域でどうやって遊ぶ環境を作っていくかを地域、行政等で考えていかなければならない。
- 教育プランは総花的に感じる。何が川崎らしいのかが見えてこない。
もっと教育プランを広報したほうがよい。教育プランは、市民に伝わっていないのではないか。川崎の教育のスローガンのようなものがあったらよい。
- CS をやっている学校の保護者は、地域との連携を持っている。しかし、やっていない学校の保護者は、子どもが学校に行っている間は学校との繋がりがあがるが、卒業すると学校との繋がりが無くなっていく。この人たちをどのように学校と結んでいくかが課題である。
- 子どもは、学校だけでなく地域の人材である。地域を構成する市民として自覚させていくことが大事である。
- 大人が子どもを育てると同時に、子どもが大人を育てる。
子ども夢パークは良いが、子どもの日常の遊び場は小学校区ではないか。こども夢パークを各小学校区に造るのは難しいので、公園利用者と協力して、公園の利用方法について皆で考えていかなければならない。
- 子どもの居場所の中には社会的居場所も重要である。公園等のハードだけでなく、ソフト面の出会い・つながりの場が重要である。地域の中で子どもが出会う場所も必要である。

閉会